

# 入曽地区中学校統廃合検討協議会 学区部会第1回会議録

- ・開催日時 平成24年6月20日（水） 午後7時～午後9時15分
- ・開催場所 入曽公民館 3階ホール
- ・出席者 20名（うち代理1名）
- ・事務局 生涯学習部長 次長兼教育総務課長 学校統廃合担当課長 同担当主任  
学校教育部参事兼教育指導課長 学務課長
- ・傍聴者 17名

## 【会議内容】

### 1 開 会

### 2 委嘱状交付

### 3 あいさつ

### 4 部会長及び副部会長の選出

部会長に鈴木強委員、副部会長に元木良成委員が選出される。

### 5 議 事

#### （1）これまでの経緯について

（事務局） ——— 配付資料説明（略） ———

（委員）統廃合の対象校となりました入間中学校です。今回の統廃合に関し、地域や保護者の方々にアンケートをとったりしたのですが、その結果を入間中学校保護者からの提案ということでまとめてきましたので、ここで読ませていただければと思います。

狭山市は『狭山市立小・中学校の規模と配置の適正化に関する基本方針』を策定して、統廃合を進めていますが、この件について市は、狭山市の広報誌などで、市民への十分な周知を図ってきているのでしょうか。基本方針には、児童生徒の保護者や地域住民等の意

向を尊重して、これら関係者の理解と合意のもとに進める必要があるとありますが、今年5月に統廃合について地域の皆様や保護者との話し合いを行いました。入間中が統廃合の対象校になっていることを知らない方がほとんどでした。

検討協議会の議事録にはありませんが、事務局である教育委員会は検討協議会の委員に、各自治会の会員や学校のPTA会員に会議の内容をきちんと報告するよう促していたのでしょうか。何か意見を言いたい人、質問をしたい人は誰にそれを伝えれば良いのでしょうか。その体制はできているのですか。卒業生達にも知らされていません。

入間中は伝統がある学校です。当然卒業生も大勢います。この学校を学び舎として、様々な思い出を作って成長した子ども達が大勢います。まだこの地域に住んでいる卒業生達も大勢います。その卒業生達にもこの統廃合のことは知らされていません。

いったい学校は誰のものなのでしょう。行政のものですか。地域のものですか。それともごくごく一部の人たちのものなのでしょう。

しかも、平成23年10月に入間中が統廃合の対象校と決定した会議には、入間中PTA会長は欠席しており、本人は「この会議で決まるとは思ってもいなかった」と言っています。欠席裁判のようなことがまかり通るのはおかしいのではないのでしょうか。その上、平成17年度の卒業式には、仲川市長が来賓挨拶で「入間中はなくなりますが…」と話しました。その時からすでに、入間小・入間中の廃校を考えていたのではないかと疑いたくなります。

また、先日、市議会に中学校統廃合についての一般質問を傍聴しに行って来ましたが、議員の質問に対しての生涯学習部長の回答が「検討協議会の中で決めていることなので」とか「検討協議会の中に、自治会長・PTA会長が全体的なことを見て意見を出していると考えているから」とか、あたかも検討協議会委員が主体的に統廃合を進めているような表現がくり返され、一市民に責任転嫁をしているように思える行政の在り方に疑問を感じます。検討協議会委員を代表、代表と、事務局である教育委員会の方達はいいますが、その委員の皆様は、本当に地域や保護者の意見を集約して、会議に臨んでいたといえるのでしょうか。また、そうできるように事務局が地域に説明会を行い、アンケートを実施すべきだったのではないですか。たった数回の話し合いで、学校が一枚なくなってしまうと、本当にいいのでしょうか。

入間小の廃校は皆様の記憶に新しいことと思いますが、入間小での統廃合の説明会の際に、同じ児童に廃校の経験を2度はさせませんと、

教育委員会の方が明言されたそうです。

また、入間小は児童を2校に分けた為、なかなかそれぞれの学校になじめない児童もいます。「小学校で新しく友達を作っても、中学校でまた分かれてしまうのなら友人はいらない」と言う児童の声や、「2回も廃校を経験するなんてありえない」、「途中で学校が変わる」、「受験や友達関係など全てが不安」、「入間中は最高です」、「すぐに耐震工事をして残して欲しい」、「生徒の意見を聞いてください」、などの声を耳にするたびに、子ども達をこのような気持ちにさせてしまっている統廃合の進め方、また本当に統廃合が必要なのかどうかということも含め、我々大人はもっと話し合うべきではないのでしょうか。

市は、学校の規模の適正化ということで、小規模校をなくし12～18学級規模の学校を目指していますが、この12～18学級という数字が法令化されたのは50年以上も前のことで、しかも行政が統廃合を進めやすくする為に割り出した数字だそうです。教育的根拠もないと指摘する学者もいます。12～18学級という考え方が本当に現代の教育現場でも通用するのでしょうか。不登校や発達障害的な子どもの増加などがあり、学校はより細かい対応を迫られているように思います。小規模校の方が対応しやすいのではないのでしょうか。

実際統廃合となれば、事前に生徒間でのさまざまな交流、例えば行事や部活なども必要ですし、PTA活動においても十分な話し合いなども必要です。そして何よりも安全な通学路の確保は必ず実現すべきです。

教育委員会は統廃合について、何かにつけ「検討協議会の中で決めていることなので」と発言されるので、委員を受けている私は、万が一交通事故が起これば、委員であった私のせいだろうかと一生悩むことになるのかと思います。

統合までのスケジュール案によれば、学校設置条例の改正の決議後、廃校までわずか1年しかありません。もっと十分に時間をかけて準備すべきです。

入間中学校は入曽地区の中心部にある学校であり、地域住民にとっては大切な防災拠点となっています。大規模災害が想定される中、日常的に使われている防災施設として、コスト面から考えても学校は大切な施設です。

統廃合の「廃」はすたれるという字です。この言葉通り、地域から学校がなくなると、間違いなく「まち」が廃れていくと思います。子どもが通いやすい距離から学校が消えていけば、当然若い世代の人達

はこの土地に引越してこようとは思わなくなると思います。子どもを安全に育てられない地域は、益々高齢化が進み、人口が減り過疎化が進んでいくのではないのでしょうか。

最後に入間中はまだ耐震工事が行われていません。これはかなり以前からスケジュールが組まれていたと聞きます。入間中はまだ耐震工事がされていない、お金が掛かるから統廃合の対象になっているのではなく、結論が出されていたから、このようなスケジュールになったのではないですか。統廃合の検討をスタートするなら、市内の耐震補強工事が必要な全ての学校の工事を行う前の段階で検討されるべきだったのではないのでしょうか。

以上の理由から、私たちは入間中学校が統廃合の対象校になったことに納得がいきません。協議のやり直しを求めます。

(議長) 一つ確認ですが、その文章はどういった方々が作成されたのですか。

(委員) 入間中学校統廃合を考える会です。

(議長) PTA ではないのですね。

(委員) PTA ではありません。PTA の T が抜けた部分と教えてください。

(議長) 私は入曽地区の 3 校すべて、教員として経験をしています、グラウンドが狭いなどといった教育環境の面で、やはり入間中はハンディを抱えていると個人的には思っています。予算のことだけで、本来の教育の持つ意味から逸脱したところで入間中の廃校を決めたということではありませんので、そのあたりはご理解いただきたいと思ひます。

(委員) 入間中の PTA 会長がいなかったところで決めたのは欠席裁判ではないかとの話がありましたが、その前まで PTA 会長さんはずっと出席していましたし、「この会議で決まるとは思ってもいなかった」というのはちょっと…。

小規模校の方がまとまっていて良いという意見もありますが、時代が違うのかもしれませんが、やはり子どもはもっと多くの人数の中で揉まれた方がいいと思ひますし、その分、子どもは強くなるのではないのでしょうか。通学路などの問題も、今みたいに何でも危険だから駄目というのでは、か弱いというか、いずれどこかで歪みがあるのでは

ないでしょうか。日本の自殺者は一年間で3万人を超えていますが、このことは、過保護に育てられた大人が如何に精神的に弱いかということを示しているのではないのでしょうか。武蔵や三商あたりの生徒が仮に入間野中に通うことになったとしても、かなり距離はあるとは思いますが、あれくらいの距離は中学生なら歩いたってどうってことないと思いますし、むしろ健康に良いのではないかと自分としては思います。私は子ども達の見守りで通学路に毎日立っていますが、PTAの皆さんに見守りに出てきてほしいと働きかけても、いろいろと忙しいのはわかりますが、お母さん達は子どもが心配だと言いながらも、まず出てきてくれません。子どものため、子どものためと言いますが、本当にそう思っているのなら、もっと自分で体を張ってよって言いたいです。普段は何もやってないで、こういう統廃合の話が出ると、子どものためにやらないでというのは、ちょっと違うと思いますよ。たしかに二回転校するのは大変かもしれませんが、中には親の転勤などで5回も6回も転校する人もいますし、子ども自体は意外に強いと思います。

(委員) それは違うと思います。親の都合による転校と、あなた達の学校がなくなるから転校というのは違うのではないのでしょうか。

(委員) 私たちは山王中や入間野中に行くから反対だと言っているわけではありません。人数が多いのが良いという意見はもっともだと思いますので、だったら3校が合同になるくらいの大きな学校を建てていただきたいです。

(議長) そういう意見は検討協議会でも出ましたが、なかなか現実的には難しいということでした。

先ほど、市民に情報が周知されていないといった指摘もありましたが、6月30日に入間中で保護者説明会を行うということですから、そのあたりはしっかり周知していただければと思います。それと、委員の皆様におかれましても、それぞれのPTAや自治会の皆さんに、ぜひ広報していただければと思っています。

(委員) 本来は、統廃合の検討協議会が始まる前に広報、周知が必要だったと思いますし、委員についても教育委員会が選んでいるだけで、やりたいと思っても、やらせてもらえないですよ…。

(委員) 事務局としては、どの程度の範囲まで周知徹底しなければならないと考えているのですか。

(事務局) 遅れてしまった面はございますが、まずは入間中学校に対して説明会を開催したいと考えています。

(委員) 保護者や地域住民が納得していない中で進めていくのは危険ではないですか。基本方針の趣旨にもありますよね…。

(事務局) 入間中学校の保護者が反対するお気持ちは心情的には理解しているつもりですが、やはり教育委員会としては、適正規模を確保して教育環境を整えていきたいと考えておりますし、検討協議会の決定は重いものと受け止めております。ですから、入間中学校を統廃合の対象とする方向で今後進めていきたいと考えています。

(委員) この基本方針、初めて見ましたけど、なかなか良いことが書いてありますよ。こういうのも、もっと知らしめれば解かる人が多いよ、これは。反対の人もあるかもしれないけど、それを避けて通らないで正面切って行かないと。そうしないと活路は開かないよ。

(事務局) 今まで周知が足りなかった部分があったのは事実ですので、入間中学校の説明会を皮切りに、必要な箇所に説明はしていきたいと考えています。

(議長) ホームページでも議事録や資料は出ていますから、そのあたりも見ていただければと思います。

(委員) 本来は協議をする前に広報が必要なわけで、入間中の統廃合が決まってから広報されてもしょうがないから協議のやり直しをしてくださいってお願いしているわけです。委員は PTA を代表して出ていたはずなのに、入間中では検討協議会の情報は全く下りてきませんでしたから。

(委員) だからさ、事務局は出席している人に任せるだけじゃなくて、もっとどんどん出ていかなきゃ…。

(委員) 会議録には残っていないようですが、学校や地域に戻って周知を徹底してくださいとか、皆さんから意見を吸い寄せてきてくださいとか、事務局からそういったお願いはしていたのですか。

(事務局) はい、代表で出ていただいている委員の方々には、皆さんに周知していただきたいといったお願いはしておりました。

(委員) 集約された意見を委員から聞いていたということですか。

(事務局) 代表として来ていただいておりますので、代表としての意見を言っていたのだと考えています。

(委員) 検討協議会や統廃合の話が進んでいることは、ほとんどの方は知らないですよ。統廃合を考える会でチラシも全校配布しましたが、ほとんどの方は知らなかったと仰っています。地域の方もほとんど知らないし、そういう事実があるのに入間中を廃校にしますって決めてしまっているのですか。

(事務局) 検討協議会で出した結論は尊重すべきものと考えておりますので、入間中を統廃合する方向で進めていきたいと考えております。

(委員) 20人だけの意見で入間中を廃校にすることを決めたということであれば、協議会の委員というのは責任重大ではないですか。そういうことを一般市民にさせるといっておかしくないですか。

(事務局) 委員の方々のご意見につきましては、一部個人の意見というものもあったかもしれませんが、それだけが先行して意見を述べられたとは考えておりません。学校のことや地域のことなど、いろいろな角度から検討したうえで導いていただいた結論だと事務局としては考えていますし、決定は重いものであると受け止めています。

(議長) 基本方針は、教育委員会会議の承認も得て、議会にも報告されているという状況を踏まえたうえで、私たちは参加をしました。3校を2校に統廃合するという方針を受け、設備など諸々の観点を検討した結果として入間中に決まったということです。実際に子ども達に見せれ

ば、僕はこっちの学校に行きたいとか言う子もいるのではないでしようか。

(委員) 子どもたちは練習試合で何度も行っていますが、山王中に行きたいなんて言いません。入間中で頑張りたいって言っています。

(議長) ただ、入間中は朝練でも大きなネットを出して、バレーとテニスのごっちゃになったりして、かなり大変な部分がありますよね。

(委員) 入間中は、そういった状況で何十年もきていますよね。

(議長) はい、長いこと懸案だったわけです。

(委員) それでは、昔の入間中の子ども達は今よりも人数が多かったにもかかわらず、小さな校庭で我慢していたということですね。

(議長) はい。ですから、今回の統廃合の話をいただいた時に、この機会しかないと思い、そういった意見を述べさせていただいたわけです。

(委員) 一つ確認したいのですが、この基本方針が平成19年に作られているのは、何か意味があるのですか。

(事務局) 平成19年度あたりは生徒数がピーク時の半分くらいになってしまった背景もあり、そのあたりから検討を始めたということです。

(委員) 平成18年3月の入間中の卒業式のときに、仲川市長が来賓でいらした際、入間中は廃校になりますよという話をされました。その話の後に基本方針ができている感じを受けますので、実は入間中は、その時点で廃校というのが決まっていたのではないですか。

(議長) すいません、議長としてもちょっと困っているのですが、入間中さんのご要望は入間中廃校という結論を元に戻せないかということだと思っておりますが、その他に意見のある方はございませんか。

(委員) 私は幼稚園の統廃合を経験していますが、行政の方はいつも、協議会で決まったことを説明しにくるだけで、お母さんの意見を聴きにく



るのではなく意見を拒否しにくるというか…。今回も説明会を行うということですが、同じように決まったことを説明しにくるだけであれば、お母さん達は何を質問すればいいのですか。

(事務局) 入間中学校が統廃合の対象に至るまでの経過、そういったところから説明させていただきたいと考えております。

(委員) 本来は、お母さんたちが意見を言える段階で来るべきだったと思いますけど…。

(委員) 事務当局も反省が乏しいけど、委員の方も、周知してほしいから来てくださって事務局にお願いしなきゃ。

(委員) 入曾幼稚園の時は言っても来てくださらなかったですよ。決まった後に来てくれただけで…。また今回も同じですよ。

(委員) この基本方針の内容は良いのだから、もっと早めに知らせないと。そうしたら反対している人たちでも統廃合が必要だってことは解かるよ、これ。曖昧な形で押しつけられているから、みんな頭に来ちゃっているわけで、事務局はこういった内容を早めに必要な所に訴えていかないかと…。

(委員) 通学路の関係ですが、入間中では現在、危険ということで自転車通学は校長先生の判断で認められていません。入間野中に通うにしろ山王中に通うにしろ、自転車通学は危険であるにもかかわらず、そういった安全確保は後回しにして、まずは学区を決めましょうということですが、親にとっては、それらを分けて考えることはできません。あそこのマクドナルドの道を 200 台くらいの自転車が通るのを想像しただけでも…。

(委員) 自転車は無理だと思いますよ。

(議長) 歩いていても危険な所ではあると思います。

(委員) それでも入間野中や山王中まで歩いて行けてことですか。

(議長) 縁石を造ってもらったり、道幅を拓けてもらったりといった努力が必要な部分はあると思います。

(委員) そういった整備を、あと1年でやってくれるのですか。

(委員) すいません、今日は学区の見直しについての協議で来たつもりなのですが、入間中廃校を差し戻しにするような話とか、通学路の話とかも出てきて、何か収拾がつかなくなっている感じがします。

私は小学校の時も統廃合の委員を経験しましたが、本当に委員の皆さんは真剣に取り組んでいましたし、私自身、胃が痛くなったり泣きたくなったりする時もありました。周知の点で委員さんが皆さんに言って回らなかったという話がありましたが、そういうふうにとるのもちょっと切ないかなと…。小学校の会議の時も、皆さんから意見を聴いてくださいと事務局の方からは言われていましたので、今回も同じように言われていたと思います。

(議長) 進行がまずくて本当に申し訳ありません。

(委員) 子ども達の気持ちが全く反映されてないですよ。入間野小と南小に別れてしまった子ども達の気持ちは皆さんご存知ですか。全員が全員良かったというふうには、なってないはずですよ。

(委員) 全員が全員というのは無理でしょ。

(事務局) その件につきましては、入間野小と南小でアンケートを取らせていただきました。その結果につきましては、近日中に全員の意見をホームページに掲載したいと考えていますし、次回の会議で皆様にもお配りしたいと思っています。

(委員) 入間川地区の協議会を傍聴した際に、事務局は狭山台小の統廃合のアンケート結果の内容を説明していましたが、良かったという意見は伝えても、ダメだったとかイジメがあったとかいうことは、記載されてあるにもかかわらず、そういったことは全然説明しないわけですね。学校に通えなくなってしまった子が実際にいるのに、そういうことは全然取り上げないで、仲間が増えて良かったということでまとめてしまうのは、あまりにも簡単に考えすぎているし、中学3年の受験を控え

た子たちが、いきなり一緒の学校に行くということを、もう少し考える必要があるのではないのでしょうか。

(事務局) 入曽の小学校のアンケートの結果につきましては、全ての意見を出させていただきます。生徒さんにとっては非常にデリケートな問題ですが、より良い統合にしていきたいと考えています。

(議長) 子どもの意見も確かに大事ではありますが、やはり責任ある大人が、きちんと子ども達を育てていかなければなりません。今は安全安心、便利簡単の時代ですから、子ども達の経験が足りないといった指摘もあります。災い転じてではないですが、今後の人生で大きな変化に直面することは必ずありますから、統廃合という変化が長い目で見ればマイナスにならないという、そういった考えで進めていきたいと考えています。

(委員) 最後に言わせてください。統廃合になって、子ども達にあっちの学校に行きなさいと伝えるのは私たち保護者です。ですから、保護者が納得をしていなければ、子どもに話なんかできないと思います。

(議長) 統合をスムーズに行うため、お互いの学校同士で事前交流を行うなど、子どもたちが精神的な負担がかからないような計画を皆で考えていければいいのかなと思っています。

(委員) 先ほど通学路の話などが混ざってしまっているとの意見がありましたが、やはり当事者にとっては切り離せない問題です。安全な道が確保される前に、あっちの学校にと言われてしまう怖さというか、やはり、そういうことは一緒になって考えないと…。

(議長) 本日の資料で学区の見直し案がいくつか提示されています。そちらの協議のなかで、そういった安全面の話も出てくると思いますので、そこで併せて考えていければと思います。

(委員) 入間中の統廃合を進めないでと言っているのは、検討協議会で出した結論を拒否されるということですよ。

私も含めて20人の委員で協議してきましたが、いい加減な気持ちで協議してきたわけではありません。はっきり言って、絶対100%皆が良

いという方法は無いと思います。全員が良いということはありませんという前提で、我々はいろいろな事を考えて、最終的な結論としては入間中さんを廃校にするということで、もちろん問題もあるとは思いますが、そういうことで皆で一生懸命考えて決めたわけです。いい加減な気持ちでやってきたわけではありませんから、それを全面拒否されるのは我々としては心外です。どこの学校をやったって駄目なわけで、自分の学校がやられるのは皆イヤなわけです。部外者の私が言うのもなんですが、それを乗り越えていただかないと…。やはり、ここは高所に立って判断していただくということしかないと思いますよ。

(委員) ですから、はじめの所に戻ってくださいって言っているわけです。

(委員) また一年間やり直せってことですか。

(委員) 地域や保護者の皆様に、ちゃんとお話があったうえで協議をしてくださいと言っているわけです。

(委員) それはね、事務局を代弁するわけではないですけど、保護者の代表として PTA の会長、副会長さんがいらっしゃったわけですよ。その方がお知らせするかしないかは、その方の考え方であって、我々がどうこう言うわけにはいかないでしょ。ホームページに全部出ているし、自分で調べようと思えば調べられるはずですよ。それを教えない、教えないと言って事務局が悪いと言って責めるのは、ちょっと片手落ちかなと…。私はそう思いますよ。

(委員) こういうふうに辞令をいただくというのは、ものすごく重い事ですよ。背後にいらっしゃる方々の合意形成をしていくことが任務になってしまうわけで、そのために呼ばれているわけだから。もしも合意形成できない状況があれば、事務局を呼んで、そこで揉んでやっていくということにしていかないと…。

(議長) ここは部会ですので、検討協議会の決定を覆すとか覆さないとかいった権限は持っていないと思いますので、この件につきましては事務局に一任します。必要であれば、私たち会長、副会長を呼んでいただいてもかまいません。検討協議会を臨時で開くことなども含めて、その結論は次回に出すということによろしいですかね。

(委員) あの、ちょっといいですか。私は今回初めて統廃合の会議に出させていただきました。この平成19年にできた基本方針も見させていただきましたが、この資料、とっつてもしっかりできているなって思いました。

入間中の方々が反対をされるのは解かります。ただ、先ほどから反対の主張を聞いていますが、この基本方針を超えるものが聞こえてこないわけですね。全住民の何%が反対などといった数字的なものとか、この何年もかけて作った基本方針を超えるものを出してもらわないと、ただ差し戻し、差し戻しと言われても…。はっきり言って、私たちは暇な時間を来ているわけではありません。子どもの安全って言いますが、何をもって図るのですか。自主自立の精神でやってもらいたいという思いもありますし、設備の話もありましたが、もし学区の自由化があれば、自分の子どもは入間川小学校に車で毎日送り迎えしてでもいいから通わせたいと思っています。やはり学校の設備というのは、子どもにとっても大切なことです。それと、いま入間野中学校に通っている娘の学年は、100人足らずで女子はたったの三十数名ですから、その中で弾かれた場合、逃げ道は無いです。確かに揉めることはありますが、人数が多くて学級数も多いほど、逃げ道はあるわけです。悪い方にばかり考えないで、良い方にも目を向けてほしいと思いますし、私自身、小学校6年の時に統合で入間野小学校に行きましたが、ある日突然みたいな感じで入間野小学校だよって云われて行ったのですが、とても楽しかったですし、どんな新しい友達に会えるのだろうとか、悪いことは全く考えませんでした。もちろんイジメなどもあると思いますが、社会に出れば、ある程度のことはありますし、いま逆に小中学生のうちに生きる力を養ってもらいたいと思っています。私の時代は40分歩いて中学、高校と通いましたし、革の鞆ですから本当に重かったです。でも、それが当たり前の時代だったような気がします。

反対なら反対で、ここにいる委員の皆さんを納得させるような資料を示していただきたいですし、申し訳ないですけど、反対の方は感情論になってしまっている感じがします。ここは学区の見直しについて検討する場ですから、差し戻しとかっていうことは別問題として考えていかなければ、今後の協議が進まないと思います。本当に反対するのなら、実際に何%の人が反対なのか、私は数字で知りたいです。入間中は住宅街にありますから、もしかしたら近隣の住民の中には、うるさいって思っている人が正直いるかもしれません。

(議長) 私が入間中で校長をしている時は、音楽室でやっていた朝の合唱の時など、しょっちゅう苦情がきて大変でした。

(委員) 子どもを保育園に入れるときも、やはり住宅街の中で、近隣の方の反対が凄まじく、子ども達にまで危害が及んだため、慌てて別の所へ転園させたという経験があります。そういうこともありますし、何事も良い面、悪い面の両方あると思うので、反対の意見ばかりでなく、もう少し建設的な意見もあっていいと思います。子どもの心のケアと言いますが、現在の入間中にしても全くイジメがないとは思えないですし、逆に入間中で今辛い思いをしている子にとっては、学校が変わることで状況が変わるかもしれません。子どもは生きる力も成長する力もありますから、まずは親が、もっと建設的になって、感情論ではなく理性的に話し合っしてほしいと思います。

(委員) 私も検討協議会の委員として出席しておりましたが、胃が痛くなる思いで辞退したいと思った時もありました。それくらい真剣に考えましたし、私自身、入間中を卒業して今年で 50 年、そんな思いを胸に、この協議に参加させていただきました。入間中の方のご意見も入間野中の方のご意見も、それぞれもっともだと思います。ただ、統廃合検討協議会の委員として辞令をもらっている以上は、より良い統合になるように皆で考えていくべきではないのかなと思っています。検討協議会でも、ずっと反対を唱えられていた委員さんがおりましたが、その方は途中で辞任しました。私も一緒に辞めようかと思いましたが、引き受けた者として、あまりにも無責任かなと思ひまして、今日に至っている次第です。

子どもがより良い方向に行くように、これから皆で考えていければいいなって思っています。

(委員) 私も去年から検討協議会の委員として参加しておりましたが、やはり割り切れない点は、この統廃合の問題は、ソフトの面とハードの面のバランスが非常に難しいところです。教育というのはソフトの面ですが、適正規模の教育の効果というのは、正直素人では分かりません。ハードの面で言えば、やはりお金、税金という問題が出てくると思います。今は少子化ですから、今後税収も少なくなりますし、そういう中で先生の適正配置となると、どうしてもお金の問題は絡んでき

ます。極端な話ですけど、市役所の方でお金が無いから廃校にしてくれ、また逆に、税金が上がってもいいから残しておきたい、そんなような話の方が明確なのかなとも感じています。

私は小学校3年生の時に入間小から山王小に移った経験があります。今回とは違い、人数が多くなつての発展的なイメージの中での転校でしたが、とくに違和感は無かったです。

本当にいい加減な気持ちで検討協議会に参加していたわけではありませぬし、こうやって皆で話し合っていくことは必要なことだと感じています。正直な話、どっかで旗を振らないと進んでいきませぬし、旗を振って、それに対して反対が出ることもしょうがないですし、それを如何に融合させるかですから、そのあたりは教育委員会さんに覚悟を見せてもらいたいし、我々委員もそういった覚悟で話し合っていかなければいけないと思っています。

## (2) 統廃合に伴う学区の見直しについて

(事務局) ——— 配付資料説明 (略) ———

(委員) 対照表の②案の小学校との関係の箇所には書いてありますが、平野台自治会あたりの御狩場小から東中に進学する校区に住む生徒は、実際は特別許可地区で山王中に通っているケースがほとんどなのですが、学区の弾力化により入間野中への進学を可能とした場合とありますが、可能になるかどうか判断できるのは、いつ頃なのでしょう。

(事務局) 仮に②案で決定した場合、その段階で調整したいと考えています。

(委員) 決定以前の現段階では判断はできないということですね。

(事務局) はい。

(委員) 御狩場小としては、特別許可地区のエリアの児童も含めて一緒に動けるような形をとっていただくことを望んでいます。

(事務局) こちらとしても、そういった形が望ましいと考えています。

(委員) どの通学路が安全かは、実際にみんなで歩いてみなければ分かりま

せんよね。道路の状況を知らないで、ああだこうだ言っても始まりませんから、この道を通学路として想定しますというものを出していただいて、みんなで歩くよりしょうがないですよ。

(事務局) 入間小学校のときも、実際に歩いたうえで通学路の安全整備を検討した経緯もございますし、そのあたりの道路の環境整備は慎重に進めたいと考えています。

(議長) 交通指導員に意見を聴くということもありますよね。

(委員) 通学路というのは、どうやって決めるのですか。

(事務局) 小学生の場合は集団登校ですので、集合場所を決めたうえで、最も安全が確保されている道を決め、そこを歩いて登校してもらっています。

中学生の場合は、学校に至るまでの幹線道路など主立った道を決めるだけでして、とくに危険が指摘される箇所につきましては、教員が立哨指導に立つなり、地域の方に見ていただいたりして対応しています。

(委員) 中学生の通学路にも交通指導員は立つのですか。

(事務局) 毎日ではありませんが、年に数回の交通安全週間の時などには立っていただくこともあります。小中で重なる通学路もありますので、そういう所では交通誘導員さんには中学生も含めて見ていただいています。

(委員) 中学生は幹線を決めるだけで、枝線はどこを通過してもいいわけですね。

(事務局) 危険な道については、通らない方がいいと学校側で指導する場合があります。

(委員) 通らない方がいいよと言うだけですか、それとも通ってはいけないと指導するのですか。



(事務局) 本当に命の危険がある所については、通るなという指導はしますけれども、基本的には親子さんの判断に任せています。

(委員) 先ほど環境整備と言われたけど、それは人的配置のことですか、それとも道路整備のことですか。

(事務局) 小学校の時も、道路の整備や、踏切に警備員を配置するなどといった対策をとらせていただきましたので、できるだけ要望はお聴きしたいと思っています。保護者の方々の意見も伺いながら、可能な限り、より良い方向で環境整備を進めたいと考えています。

(委員) 新1年生はいいのですが、在学中の生徒は、ある程度人間関係ができあがっていますから、線で割ったような学区の移動ではなくて、この友達がいるから、こっちに行きたいといったような個人の意見が配慮される可能性はあるのでしょうか。中3の場合は受験も控えていますし、親しいお友達と一緒に勉強していききたいという思いもあると思いますので、そういったことが配慮されることを望みます。

(事務局) おっしゃる通りだと思います。統合しても入間中学校の生徒が分かんない案もありますので、そういった面も踏まえたうえで考えていただければと思います。

(委員) 今でも学区を変えることはできますよね。

(事務局) 基本的には通学する学校は指定されているのですが、さまざまな事情により指定校には通いづらいといったお子さんにつきましては、状況によっては指定校以外の学校に通学することを認める場合もあります。

(委員) 部活動が無いというのも理由になりますよね。

(事務局) はい。それと、御狩場小学校さんの特別許可地区のような、どちらかの学校を選べる学区もあります。そういったことも含めて、皆さまにご検討いただければと考えています。

(委員) 私はこっちの方がいいという選択もありうるということですね。

(事務局) あくまでも必要性が認められればですが、そういった学区の運用も考えられないことはないと思います。

(委員) 全員が希望することも可能ということですか。

(委員) 全員認めちゃったら…。

(委員) 人気のある学校はいっぱい増えたりして、そうなるとう結局まずくなりますよね。

この案の中で両校の適正規模を確保できるのは④案しかないわけですよ。これなら、話し合わなくても④案になってしまうのではないのですか。適正規模が目的の統廃合ですから…。

(委員) 絶対に確保されなければいけないということではないと思います。

(事務局) 基本的には確保したいのですが、適正規模の観点のみではありませんので、難しい場合もあるとは思っています。

(委員) それじゃ、何のために統廃合するのですか？

(委員) だからさ、一面だけで観ちゃダメなわけだよ。やはりいろいろな観点から判断していくわけだから…。

(委員) でも、適正規模にするために統廃合しましょうってことですよね。

(議長) より近い適正規模を目指すという面もありますから…。

それでは今日のところは時間もありませんので、資料は改めてじっくり見ていただいて、他にこういう案があるよというのがあれば次回提案していただいても結構ですし、そういうことでお願いします。

(委員) 御狩場小から一つ事務局にお願いします。うちの学校は中原自治会をはじめ地域の方々に支えられて成り立っています。御狩場小学区の自治会の方に地域の代表者として入っていただければ、地域の方々への周知が後手に回るということも避けられると思いますので、部会の委員として、もしくはオブザーバーのような形でも結構ですので、その

あたりご検討いただければと思っております。

(事務局) その辺は柔軟に対応していきたいと考えております。

### (3) その他

(事務局) 先ほどもお伝えしましたが、小学校の統廃合のアンケート結果は、近日中にホームページにアップいたします。

そして、改めて委員の皆様におかれましては、意見の集約等お願いできればと思っております。

(委員) 今日、入間中の代表として喋らせていただいたことは、全て会議録に残してもらえるわけですね。

(事務局) はい。基本的には発言者が特定されない形で出させていただきたいと考えています。

(委員) 彼女の場合は責任があるのだから、分かった方がいいでしょ。

(委員) 入間中としては、それでかまいません。

それと、今日は考える会で行ったアンケートの結果も用意していますので、もしよろしければ委員の皆様にお持ち帰りいただければと思っています。

(議長) 最後に副部会長からご挨拶をお願いします。

(委員) 私は、幼稚園の統廃合の協議にも、小学校の統廃合の協議にも出させていただきましたが、一度決まったことが今日のように戻ってしまうというのは、はっきり言いまして、いつもと同じパターンです。ただ、皆さんお忙しい中貴重な時間を使っているわけですから、その辺はもう少し考えていただきたいと思います。ましてや検討協議会の方々が一生懸命考えて導いた結論を否定されるようなことがあつては、私たち会長、副会長の立場としては出席いただいた委員に本当に申し訳が立ちませんので、そういうことで、前に進む協議を今後はお願いしたいと思います。本日はありがとうございました。

## 6 閉 会

### 【配付資料】

- ◆ 狭山市立小・中学校の規模と配置の適正化に関する基本方針
- ◆ 入曽地区中学校統廃合検討協議会の検討状況について
- ◆ 中学校通学区域一覧
- ◆ 小・中学校通学区域図
- ◆ 入曽地区連合会区分図
- ◆ 児童生徒数・学級数推計表
- ◆ 統廃合に伴う学区の見直し案（入曽地区）
- ◆ 対照表（入曽地区の学区見直し案）
- ◆ 入曽地区中学校統廃合検討協議会学区部会委員名簿